

山本金属製作所と産学官グループ システム開発開始

金属の強度試験などを手掛ける山本金属製作所（大阪市）と、岡山県産業振興財団（岡山市北区芳賀）など4社・団体でつくる産学官連携グループは、発電プラント部材などの耐久性を計測するシステムの共同開発に乗り出した。同社の「岡山研究開発センター」（同）を拠点に2015年度の実用化を目指す。事業化できれば国内初となり、現在は海外企業に依存している計測のコスト、時間の大幅な短縮が図れる。（伊東圭一）

プラント部材 耐久性を計測

システムは、プラント配管などに用いる厚さ20センチ以上の金属部材が対象。製造時に溶接の熱や切削の衝撃を受けて生じた「残留応力」を測る。残留応力は、部材の強度を劣化させ、長年使用するうちに予期せぬ破損

システムは、プラント配管などに用いる厚さ20センチ以上の金属部材が対象。製造時に溶接の熱や切削の衝撃を受けて生じた「残留応力」を測る。残留応力は、部材の強度を劣化させ、長年使用するうちに予期せぬ破損

強度精密に解析 岡山拠点、15年度実用化目指す

を引き起こす原因となる。国内でも自動車部品など小型なもの計測は可能だが、厚く形状が複雑なプラント部材を計測する技術は英国の1社にしかなく、国内メーカーは部材のサンプルを送って計測を依頼している。

システムは、プラント配管などに用いる厚さ20センチ以上の金属部材が対象。製造時に溶接の熱や切削の衝撃を受けて生じた「残留応力」を測る。残留応力は、部材の強度を劣化させ、長年使用するうちに予期せぬ破損

共同開発の参加企業・団体

企業・団体名	役割
山本金属製作所	高精度な穴開け・計測技術の開発
神鋼溶接サービス	試験用部材の製作
大阪大	残留応力の影響を解析
岡山県産業振興財団	進捗管理・事業化支援

共同開発の参加企業・団体

15日には岡山市内で関係機関の約20人が出席して初の研究推進委員会を開催。山本金属製作所の山本憲吾社長は「発電施設や化学工場などの安全性向上につながる。既存技術より精度を高め、新たな世界基準となる測定法を岡山で生み出したい」と話した。

同社は1989年設立。資本金8千万円。売上高約22億円（12年5月期）。従業員85人。精密機械、医療機器メーカーなど向けに、部品の加工や評価試験の技

共同開発の参加企業・団体

企業・団体名	役割
山本金属製作所	高精度な穴開け・計測技術の開発
神鋼溶接サービス	試験用部材の製作
大阪大	残留応力の影響を解析
岡山県産業振興財団	進捗管理・事業化支援

は進捗管理や開発後の事業化支援を担う。

15日には岡山市内で関係機関の約20人が出席して初の研究推進委員会を開催。山本金属製作所の山本憲吾社長は「発電施設や化学工場などの安全性向上につながる。既存技術より精度を高め、新たな世界基準となる測定法を岡山で生み出したい」と話した。

同社は1989年設立。資本金8千万円。売上高約22億円（12年5月期）。従業員85人。精密機械、医療機器メーカーなど向けに、部品の加工や評価試験の技